

## 馬と共に生活する町 ～馬と生活すること～

九州に馬と生活する町を造る.

この町の中では、通常、自動車などエンジンを持つ動力が担っている役割を全て“馬”が行う.

馬と生活する町： 動力→馬

例： 交通手段→馬

新しい趣向の Park & Ride

→Park： 町までは公共交通機関(電車・バス)を使用

自動車は町の外の駐車場へ

→Ride： 馬, 馬車

この町を造るためには・・・

⇒馬と共に生活できる町を考え、創出する.

⇒馬が生きていける環境を造ることが必要になる.

自然(土・緑・水), ゆとり(物理的・精神的)の確保.

⇒自然と調和した町を造る.

馬と共に生活できる町とは・・・

Factor → Process ⇒ Results

道 → 土道(馬の脚のために) ⇒ ヒートアイランドの抑制

餌 → 牧草地 ⇒ 土地の有効活用・緑地の拡大・生態系の保持

堆肥 → 牧草地・畑へ ⇒ 循環型産業

馬の世話・維持・管理 ⇒ 既存施設・技能者の有効活用および新しい雇用の創出

動力としてだけではなく、馬が人に与えてくれること・・・

馬と共に生活することで、動力を得るだけでなく、上記のような Results が得られる。また、馬と関わることによる、人への影響は想像する以上に大きい。

例： ホースセラピー

馬との触れ合いだけで成立するのではなく、馬をとりまく環境・時間の流れなどの相乗効果から成立するのだと考えられる。

地域性・・・

九州産馬の歴史と今・九州の馬産地としての現状と問題点：

⇒ 生産者の高齢化・減少(後継者不足), 既存施設・土地の放置

野生馬, 自然と馬：

⇒ 九州にもともと存在する馬と生活する文化の継承

## 馬と共に生活する町 ～馬と生活すること～

この町に住む人々、この町を訪れる人々はどんなことを感じ取るのか。  
利便性・快適性・高効率を考えたなら答えはこの町ではないかもしれない、でも、不便が必ずしも悪いことではないはずである。この町からは、それよりももっと大きなものを得られるはずである。馬のスピードで生活してみたら…馬がいることにより、より豊かな自然と調和した町となる。何に価値を置くか…朝、新聞配達バイクのエンジン音ではなく、馬の蹄の音で目覚める町…

“まち”と“ひと”を動かすアイデア。馬を原動力とする町。

“まち”と“ひと”を馬で繋ぐ。